



## 青森の夏の風物詩 スルメイカ

世界で最もイカを食べているのはどこの国の人たちでしょうか？実はイカの消費量世界一は私たち日本人です。その中でも青森県は全国有数のイカの産地として知られています。青森県は三方を海に囲まれ、夏のスルメイカ、秋のアオリイカ、冬から春にかけてヤリイカやジンドウイカなど季節によって様々なイカが見られます。浅虫水族館では開館当初から様々なイカの飼育を行ってきました。中でも特に飼育の難しいとされるスルメイカを毎年夏に展示しています。今回はそんなスルメイカについてご紹介します。

### スルメイカとは

スルメイカは胴長約 30cm ほどのイカで、主に東アジアの外洋に生息しています。日本で漁獲されるイカ類の中で最も多く、私たち日本人が一番食べているイカとも言えます。また、クロマグロをはじめ多くの海洋生物にとって重要な餌となっています。身を乾燥させた「スルメ」の原料に多く使われることが名前の由来ですが、青森ではマイカとも呼ばれています。

多くのイカと同じく寿命は1年と短く、生まれた頃は全長1.2mmしかありません。秋から冬に日本海の南部や東シナ海で生まれた稚イカは、成長しながら北上し夏から秋にかけて青森の沿岸で見られ、産卵のためにまた南へ下ります。スルメイカは季節によって日本沿岸を回遊する旅人なのです。



▲日本人が最も食べる「スルメイカ」

### スルメイカ飼育への挑戦

私たちが最も食べているスルメイカですが、生きている姿を見られる水族館は多くありません。

その一番の理由は、外洋を回遊するため遊泳力が高く、驚くと水槽内を走りすぐに壁にぶつかって死んでしまう点です。イカの体は柔らかいため、非常に傷つきやすいのです。

次に、イカの仲間はお腹がすぐとすぐに共食いを始めます。寿命が短いため、毎日たくさんの餌をとって成長しなくてはならないので時には同じイカ同士で食べあいます。スルメイカは外洋に暮らすため、沿岸に暮らすイカに比べより飼育が難しいのです。

浅虫水族館ではその問題を解決するため水槽の中に透明なビニールのシートを設置することでイカが壁に衝突するのを防いでいます。また、餌はアジを3枚におろしたものを午前と午後に分けて餌を与えることで、常にイカがお腹いっぱいになれるように工夫しています。こうした取り組みにより、過去に世界最長記録の飼育日数 83 日を達成しています。



▲夏の季節展示スルメイカの群泳

### 最後に

飼育が難しいとされるイカの仲間ですが、浅虫水族館ではスルメイカのほかに、美味しいイカとして知られる「アオリイカ」や「ヤリイカ」、世界最小の「ヒメイカ」や、求愛行動がユニークな「エゾハリイカ」など、季節に応じて展示しています。今後も、私たちの食文化に欠かすことの出来ないイカたちの美しい姿を見ていただけるように、更なる挑戦を続けていきたいと思ひます。季節によって変わるイカの展示を今後もお楽しみください。